

台湾 開南大学 交換留学報告書

文学部 英語英米文学科 林田恋々

私は 2025 年 9 月から 2026 年 6 月末までの約 10 か月間、台湾の開南大学へ留学しました。本報告書では、台湾留学を通して得た経験や学びについて紹介します。この報告書が、今後留学を検討している方々にとって、台湾留学に興味を持つきっかけとなり、不安の解消につながれば幸いです。

寮について

私は 10 か月間、開南大学の学生寮で生活しました。開南大学の学生寮には、バス・トイレが共用の「一寮」と、部屋内にユニットバスが設置されている「二寮」があります。また、2 人部屋と 4 人部屋から選択することができます。二寮にはキッチンも備えられており、学生は申請を行い料理することができます。さらに、寮の 1 階には電子レンジや軽食を購入できる自動販売機が設置されており、炊飯器などの調理器具も申請を行うことで借りることができます。

私は二寮の 4 人部屋で生活しました。ルームメイトは日本人 2 人とベトナム人 1 人でした。留学初日は慣れない環境や寮の雰囲気戸惑い、少しホームシックになりました。しかし、生活に必要な物を揃えたり、新しい友人との交流を重ねたりする中で、次第に部屋が自分にとって安心できる居場所へと変わっていききました。

ルームメイトとはとても良い関係を築くことができ、夜に一緒に話をしたり、ご飯を食べに行ったりして楽しい時間を過ごしました。帰国前には動画やケーキをプレゼントしてもらい、とても嬉しかったことを今でも覚えています。また、ベトナム人や台湾人の友人と寮のキッチンで料理をする機会も多くありました。寮生活を通して多くの友人と出会い、国籍を越えた交流ができたことは、留學生活の大切な思い出の一つです。



授業について

台湾の大学では、1コマ 50 分で授業が行われています。多くの授業は 2～3 コマ続けて実施されるため、1 回の授業時間は比較的長くなっています。

私は主に応用華語学科と IHP 学科の授業を履修していました。応用華語学科は、日本人学生が台湾華語を学ぶ学科であり、IHP 学科は英語でビジネスを学ぶ国際的な学科です。

応用華語学科では、「初級華語」を中心に学習しました。私は留学当初、台湾華語での日常会話も難しい状態だったため、最初は授業についていくことに苦労しました。しかし、授業後には必ず復習を行い、継続的に学習を続けることで徐々に授業内容を理解できるようになりました。特に文法の授業では、日本語を流暢に話せる先生が担当されており、分からない部分を質問すると丁寧に指導してくださいました。

また、後期からは TOCFL（華語文能力側験）B1 取得を目標に学習を始めました。大学では TOCFL 対策の特別講座も開講されており、週 3 日、1 回 3 時間という充実した内容で学習することができました。先生方の手厚いサポートのおかげで効率的に学習を進めることができ、帰国前に受験した TOCFL では B1 レベルに合格することができました。留学開始当初は台湾華語をほとんど話すことができなかったため、自身の成長を実感できた経験となりました。

IHP 学科には、フィリピン、ベトナム、インドネシアなど、さまざまな国籍の学生が在籍しています。クラスメイトは非常にフレンドリーで温かく、積極的に声をかけてくれたり、グループワークでも助けてくれたりしました。授業では「Human Resources」や「Workplace Diversity」など、ビジネス分野について英語のみで学びました。多文化環境の中で学ぶことで、英語力だけでなく異文化理解を深めることもできました。

また、開南大学では中間試験や期末試験が実施されます。筆記試験だけでなく、PowerPoint を使用したプレゼンテーション課題もあり、授業内容を深く理解することが求められました。

金銭面について

台湾留学の魅力の一つは、他国への留学と比較して費用を抑えられることだと思います。私はアルバイトで貯めたお金と、毎月 8 万円の奨学金を活用しながら生活していました。

渡航費は往復で約 8 万円でした。寮費は 10 か月間で、水道代・電気代を含めて約 20 万円でした。食費については、1 日 1,000 円以内を目標としていましたが、台湾は外食費が比較的安いいため、それ以下で済む日も多くありました。その分、休日に友人と出かける際には、あまり費用を気にせずに楽しむことができました。

台湾のローカル店や夜市では、日本よりも安価に食事を楽しむことができます。また、大学の学生食堂では 500 円以下でボリュームのある食事を取ることができます。

交通費も日本と比較して安く、悠遊カードを利用することで電車やバス、自転車などを便利に利用することができます。学生にとって生活しやすい環境が整っている点も、台湾留学の魅力の一つだと感じました。



授業以外での過ごし方

放課後は、友人と食事に行ったり遊びに出かけたりする日もあれば、図書館や寮で課題や復習に取り組む日もありました。また、友人と一緒に料理を作ることもあり、日常生活の中で多くの交流を深めることができました。

休日には友人と台北へ観光に行ったり、桃園駅周辺で食事を楽しんだりして過ごしました。また、台湾人の友人の家族と一緒に台南や高雄へ旅行する機会にも恵まれました。現地の方々と交流しながら台湾各地を訪れることで、観光だけでは知ることのできない台湾の文化や人々の温かさに触れることができました。

最後に

私は留学先として開南大学を選んで本当に良かったと感じています。その理由は数多くありますが、特に英語と台湾華語の両方を学ぶことができる点は大きな魅力だと思います。また、さまざまな国籍の学生と交流できる環境が整っており、多様な価値観に触れながら学ぶことができます。

さらに、周囲の方々が非常に親切で温かく、安心して学習と生活に取り組むことができました。台湾情勢について不安を感じる方もいるかもしれませんが、私は留学期間中に危険を感じたことは一度もありませんでした。

開南大学での10か月間は、語学力の向上だけでなく、人とのつながりや異文化理解の大切さを学ぶことができた非常に貴重な経験となりました。開南大学の交換留学を考えている方は私で良ければ、いつでも相談してください。

